

らいく プラス

来年4月の保育園入園の申し込みがピークを迎えていた。例年「選考基準が分かりにくい」「なぜ入園できなかつたのか、説明がほしい」といった声が多くあがるなか、その過程を極力「見える化」して市民の理解を得ようとする自治体が増えている。公平で透明性の高い仕組みづくりを模索する現場を訪ねた。

数字見て実感

募集枠は11人なのに、希望者は17人。数字を見て、改めて厳しさを実感しました」大阪市都島区に住む小林陽子さん（30）は、来年4月から現在6ヶ月の次男を預けたいと考えている認可保育園の申込状況を見て、ため息をついた。大阪市は10月下旬から人園受け付けを開始。11月12日、全園の0～5歳児クラスの募集数と第1希望で申し込んだ人数を中間発表した。

都島区内の認可園は来春開設予定を含めて17。小林さんの次男が該当する0歳児は9園で募集数を上回った一方、

新設の園の競争率は低いことを受けた。市は12月下旬まで希望を受けていた。小林さんは4歳の長男と同じ園に通わせたいので第1希望は変えないが「もし落ちたら、次はあの園に応募しよう」という心づもりができた。全体の状況を把握できた」と話す。

大阪市が中間発表始めたのは今春入園分からで、今回が2回目。「従来は受け付けた後は翌年2月に合否を通知するだけだった。申込時に『この園の競争率が高いらしい』といった噂話に翻弄される、選考の実態が分からぬ、という声に応えて判断材料を提供した」。板橋清訓・保育企画課長代理は説明する。

橋下徹市長の指示で、市は選考基準の透明化に着手した。「親が月20日以上かつ週40時間以上働いている」と1



住民が保育園に関する情報を相談にのることで持た寄って、理解を深める取り組みも広がり始めた。2月に東京都杉並区で発足した「保育園ふやし隊@杉並」は約100人が登録。既に認可園に子どもが入園している母親も参加して、今後入園を目指す「保活」中の人々に経験に基づいた助言をしている。

「入園基準はあいまいに映る部分があり、母親は疑心暗鬼になりがち。愚痴を聞き、互いに

親（31）は9月にメルマガを始めた。3月に引き続きで、相談できたりで、相談できない。11月にはふせ会にも参加し、や幼稚園の預かり

生 活

保育園申し込みピーク

選考「見える化」へ一步

開も始めた。ここまで見えた化は全国的に珍しい。

「定員オーバーなら第1希望を変える」。大阪市城東区に住む福重彩香さん（21）は中間発表を見て考え始めている。1歳の息子は、保育士らが自宅などで子どもの面倒を見る「保育ママ」施設で預けている。現在第2子を妊娠しており、「上の子が認可園に入ると助かる。少しでも入れ

る確率の高い園を優先する。保証はない。情報をどう判断するかは各自に委ねられる。情報公開は園の運営者にも影響を与える。利用者の支持が他園との比較数字で示される。長期的には保育内容や設備改善のための資料になる」。アートチャイルドケア（大阪府大東市）の村田省三社長は指摘する。大阪市東淀川区に開設する園は、定員

90人に対し中間発表での第1希望は39人。新設園は需要が読みにくいため、保育士配置計画の参考にもなるという。

「次の選択」配慮

名古屋市は2010年から検討を続けてきた点数制を、来春入園分から適用する。時間はかかったが、利用者に説明責任を果たせる制度ができると思う」。加藤仁・保育企

導入のきっかけは入園できなかつた理由の説明を求める声が相次いだから。11年から2年連續で4月時点の待機児童数が1000人を超えて、全国の自治体でワーストだった。重視したのは「同点を事実上なくす」ことだ。親の就労状況や病気・障害の有無などでA～Hの8ランクに分類。そのランク内で、育児休業からの復職や同居親族の有無などでプラス5～マイナス1までの加減点を付ける。仮にBランク・プラス1点で複数者が並んでも、さうに園の希望順位や短時間勤務制度の有無、収入額など数多くの審査項目を用意して、ボーダーラインの選考を見る化する。

従来は明確な数字がないために「総合的に勘案した」という以上の説明はできなかつたうえ、区によって判断基準が異なることもあった。来春以降は「求めに応じて、入園できなかつた申込者の点数と理由をできるだけ分かりやすく説明する」（加藤室長）方針。入園の可否通知も2月上旬に内1カ月前倒しして、次

中間発表導入／落ちた理由 明確に

保活ママ情報共有に走る

可園に子どもが入園している母親も参加して、今後入園を目指す「保活」中の人々に経験に基づいた助言をしている。

「入園基準はあいまいに映る部分があり、母親は疑心暗鬼になりがち。愚痴を聞き、互いに

（31）は9月にメール会員になつた。3月に引っ越してきたばかりで、相談できるママ友もいない。11月にはふやし隊の顔合わせ会にも参加し、区内の現状や幼稚園の預かり保育などの選

保活ママ情報共有会

に走る園の見学が主な情報源で、子どもの年齢が異なる母親同士の横のつなぎは多くなかつた。自治体の情報開示を含めて判断材料が増えることは、保育園不足をより身近な問題として考えるきっかけになりそうだ。

大阪市は入園選考の情報公開を進める							
① 申し込み状況の中間発表(11月)							
翌年4月入園の申し込み状況(第1希望)を保育園、年齢別に公表							
(例) ○ ○ ○ 区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
A保育園	申込数20人	30	20	10	5	5	90
	募集数10	10	10	5	5	5	45
B保育園	5	10	5				20
	15	15	10				40

→人気のA保育園から他園への第1希望変更や、比較的余裕があるB保育園を第2希望以下に追加する判断材料に

②入園決定者の点数分布発表(翌年5月)						
親の就労や世帯状況、考慮すべき項目を点数化して選考。何点の人が入園できたかを保育園別に公表。						
例	211点以上	201~210	191~200	181~190	171~180	…
○ A保育園	5人	25	10	5	0	… 4
区 B保育園	0	10	15	5	5	… 4

→ 入園できなかつた人に何点足りなかつたか目安を伝え、結果への納得感を持ってもらう